

人と自然：環境思想セミナー vol.33

土に住まう



日々土に触れ、想うことがある。

地球ができ、数億年かけてつくられた土。
その長い寿命のほんの一瞬を借りて
僕たち左官職人は壁を削っているのだ、と。

—久住有生

人と自然：環境思想セミナー vol.33

土に住まう

話し手：久住 有生（左官）

聞き手：鞍田 崇（総合地球環境学研究所上級研究員）

2010.8.31 tue 15:00-17:00

会場：総合地球環境学研究所・講演室
定員120名／申込不要・聴講無料

土壁。伝統的に日本の生活空間を区切ってきたもの。それは、暮らしのもっとも近くにある、いちばん身近な自然のひとつだった。

身近だからこそ、ふだんは意識されることがないが、実は素材とそこに込められた技が住まいの印象に大きく影響を与え、ひいては暮らし方をも左右してきた。

そんな土壁を目にしなくなって久しい。

土壁のいまの“かたち”を追求している左官職人、久住有生さんの活動をうかがいながら、自然に寄り添う暮らし、そもそも住むとはどういうことか考えていく。

久住有生 KUSUMI Naoki

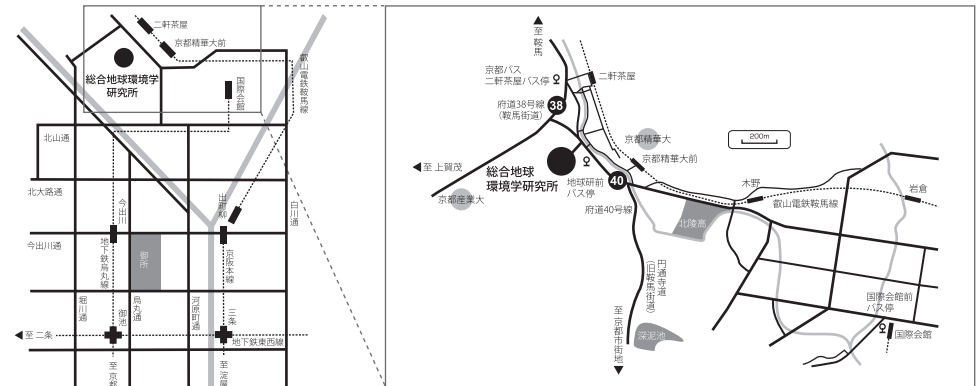
1972年淡路島生まれ。3歳から鋳(こて)を握る。18歳から修業に出て、いろいろな親方から左官技術を学ぶ。23歳で「久住有生左官」を設立。ドイツ・フランスなどの海外経験も豊富で、日本の文化財建築の現場でも腕を磨く。伝統的な高い左官技術とオリジナルのアイデア・技術で大きな評価を得ている。

主な作品に、「金閣寺茶室」(土壁左官、京都・2002)、「JR金沢駅エントランスホール」(漆喰みがき仕上、石川・2004)、「INAXライブミュージアム 土・どろんこ館」(企画・左官、愛知・2006)、「インドネシア大使館官邸」(修復元、東京・2007)、「東京国立博物館本館ラウンジ」(壁画再現、2009)など。個展「土の風貌」(大阪・主水書房、2008)など、造形的表現も試みている。

<http://www.kusuminaoki.com/>

写真：エステュール・ビエンナーレ芸術祭(フランス・ナント)にて

ACCESS MAP



■JR「京都駅」・近鉄「京都駅」・阪急「烏丸駅」より

京都市営地下鉄烏丸線に乗り換え、「国際会館」下車。国際会館駅バスターミナル2番乗場から京都バス40系統(京都産業大学ゆき)もしくは50系統(市原ゆき)にて(約10分)、「地球研前」下車スグ。

■京阪「出町柳駅」より

叡山電鉄鞍馬線に乗換え、「京都精華大前」もしくは「二軒茶屋」下車、徒歩10分。

※マイカーの利用はご遠慮ください。

お問合せ

環境思想セミナー担当 鞍田(くらた)

tel. 075-707-2382 fax. 075-707-2508
mail. kurata@chikyu.ac.jp

主催・総合地球環境学研究所 文明環境史領域 プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」(里プロジェクト)

今後の予定

最終回 2010年9月24日(金)
「エビローグーそこに在るもの」

コシヒサシ
尹 熙倉(美術家、多摩美術大学准教授)
森 桜(アート・コーディネーター、森オフィス代表)



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所(地球研)
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4
<http://www.chikyu.ac.jp>